

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2190200168		
法人名	株式会社 フロンティアの介護		
事業所名	グループホーム せきの憩		
所在地	岐阜県関市塔ノ洞2601		
自己評価作成日	平成29年 8月14日	評価結果市町村受理日	平成29年11月 7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action=kouhyou_detail_2017_022_kani=true&JizyosyoCd=2190200168-00&PrefCd=21&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 中部社会福祉第三者評価センター		
所在地	岐阜県関市市平賀大知洞566-1		
訪問調査日	平成29年 9月19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご利用者様の健康状態を常に把握し、医療連携体制を整えています。
また、緊急時も迅速に対応しております。
ご利用者様の言動などにも注目し、不安や不満な点などの改善に取り組み、それらをケアプランに盛り込み、最適なサービスを提供できるよう心掛けています。
また、職員の特技を活かし、日々のレクリエーションにも取り入れています。
職員の入れ替わりにもスムーズに対応できるよう、業務フローチャートを作成、掲示し、全職員が同じサービスレベルで、同じサービスを提供できる体制を整えています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

本年度、職員が充足されたことで少ずつ支援の幅が広がってきている。理念のもと「笑顔」をキーワードに利用者の暮らしを職員が支えている。管理者や職員同士の関係は良好であり、人員不足等大変な時期を力を合わせて乗り切っている。SNSを利用した職員の価値を高めあう取り組みはホームの風通しのよい環境づくりに一役買っている。相乗効果として食事や何気ない日常の場面で見られる利用者の穏やかな顔から心地よい暮らしに繋がっていることがわかる。
地域の付き合いは少ずつ前進している。職員の「今より外出を増やしたい」という言葉は、チームケアにより必ず達成されるであろう。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少ずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝礼時、フロンティアグループが掲げる、「我々の接遇5原則ルール」などの唱和を、管理者を含め、全員で実施。その実現に向け、日々、意見交換も行っています。	法人理念のもと「笑顔」を合言葉に日々利用者の支援に取り組んでいる。研修や勉強会、また現場の課題解決を通して、よりよい支援となるように話し合い実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	職員の通勤時による車の騒音などないように、地域周辺に配慮し、近隣住宅への挨拶の徹底。また、地域清掃活動へも積極的に参加しています。	管理者が交代してから1年、ホーム近隣と新たな関係が始まっている。地域清掃にも進んで職員が参加している。また、職場体験の中学生やハーモニカのボランティアなどが訪問している。	課題であった地域との付き合いは少しずつ前進している。自治会への挨拶など次へのつながりに期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	オープンな雰囲気と環境を大切にし、施設見学や、認知症についての相談も受け付けています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご家族様・市職員様・自治会長様・民生委員様へご案内、ご参加頂きまして、活動報告・事故報告・人事の変動などを報告します。参加者様からのご意見を募り、反映できるよう心掛けています。	市職員や地域包括支援センター、民生委員等が参加している。活動報告の他、質疑応答があり、防犯や事故、人事などホームの状況について話し合いが行われている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	当施設の空室状況なども随時報告し、また、運営推進会議にもご参加頂いています。	行政は運営推進会議で有益な情報を提供し、またホームの運営状況を把握し助言をしている。保護課や地域包括支援センターからは定期的に連絡があり、困難事例等の相談など連携し取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修と勉強会を定期的実施しています。身体拘束の事例なども参考にしながら、全職員で情報共有しています。また、日中は自由に行動して頂けるように、玄関の施錠はしていません。	担当職員が身体拘束について勉強会を行なっている。また法人の管理者会議で行う身体拘束等の事例検討は内部研修として職員と共有している。ヒヤリハットや事故については管理者が現場で指導し、再発防止の話し合いを行なっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会を定期的実施し、高齢者虐待について学習の機会を設けています。管理者、職員同士で注意喚起し、虐待防止に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現時点では成年後見人制度の利用はありませんが、生活保護者の受け入れも行っているため、情報収集に努めています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用契約書、重要事項説明書、終末期の医療等について管理者が説明。不安な点や疑問点なども解消し、ご納得頂いた上で契約締結しております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	「ご意見箱」を施設内に設置。無記名で自由に記入、投稿ができます。 また、フロンティア本社へ直接連絡して頂くことも可能です。	毎月の便り「いこい便り」と共に利用者の個別状況報告を添えている。また家族意見を支援に反映するために意見返信の取り組みを行なっている。訪問の機会になるようにイベントの出欠表を渡している。	ホームへの訪問が難しい家族への情報発信について、ホームで話し合うことに期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常のコミュニケーションを通じて意見を聞き、それら現場の声を、毎月開催される管理者会議で報告、反映しています。 また、個人面談も実施しています。	月1回の定例会議がある。法人主導のSNSを利用した「職員が職員を褒め合う」システムに管理者や職員が参加している。職員の価値を高め、風通しの良い職場環境づくりに取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格手当の支給や、能力・年齢・学歴・介護経験の実績などに応じた給与、賞与支給のシステムが整っています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	本社で行われる研修は実に多岐に渡り、フロンティアグループ職員には無償で提供されます。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域イベントなどに参加、情報交換を行うなど交流を深め、フロンティアグループのイベントにも積極的に参加するなど、サービスの質の向上に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にご本人様・ご家族様と必ず面会し、その際にご要望などを伺い、趣味・嗜好などを尊重します。 安心して暮らせる環境をご提供できるよう努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居後の質問等は電話でも随時対応し、相談しにくい状況にならないよう配慮しています。 不明な点は排除し、信頼を得られるよう努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ケアマネージャと連携し、ニーズを見極め、ご本人様、ご家族様のご要望を承ります。 ケアプラン、サービス内容に反映させています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	残存能力の活用に留意し、居室の清掃、調理や食器拭き、テーブルの掃除など、無理のない範囲で役割分担し、共同生活を営んでいます。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	「せきの憩だより」を毎月発行し、近況報告を行っています。 介護用品料金改定などが発生した場合、ただちに連絡、相談し、不信感が募らないよう心掛けています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	身内が経営する理髪店を好み、現在も利用を続けている利用者様もいます。 これは、外出支援の一環ともなっています。	利用者の高齢化等で友人などの訪問は少ないが、訪問理容や音楽療法、ボランティアなどが馴染みの関係となっている。喫茶店や墓参りなど家族と外出したり、新聞や喫煙、裁縫など習慣の継続に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	対立、孤立などの状況が見受けられた場合は、職員が携わることにより良好な関係が得られることも多く、日々の暮らしの中で、協力しあう姿も多くみられます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用(契約)終了後も、各種相談・お問合せを随時受け付けております。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人一人の意見や希望を尊重しています。必要に応じ、ケアプランの変更などの対応をしています。	利用者の笑顔を多くしようと、一人ひとりの意向や考えを尊重して支援をしている。利用者の要望等は専用のシートに記録している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に、ご本人様、ご家族様へのヒアリングを実施し、それまでの生活歴や暮らし方、性格、趣味や嗜好などの把握に努めています。 入居後も、情報収集に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員は、業務日報、介護経過記録などを確認してから業務を開始します。 注意事項などがあれば、申し送りにより、全職員に周知します。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人様、ご家族様の要望も積極的に取り入れ、かつ、介護職員、専門職、医師の意見も反映し、現状に即した介護計画を作成しています。	介護計画はセンター方式を使い6ヶ月毎に見直している。カンファレンスで話し合ったことや担当職員の意見を聞き取り計画を作成している。また家族と相談し意見を反映させている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常生活の様子を介護経過記録へ記入し、気付いた点や変化を感じた点などを職員間で情報共有しています。 新しい情報を介護計画に取り込めるよう努めています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人様やご家族様の意向が変化した場合など、ケアプランの見直しや変更、またサービス内容の充実を量るなど、可能な限り対応しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	豊かな心で毎日を過ごして頂けるよう、ボランティア慰問などを定期的に計画、実践しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人様、ご家族様の意向を尊重しています。 協力医による月2回の往診の他、歯科医、精神科医の往診もあります。	利用者や家族が希望するかかりつけ医は家族対応だが、必要に応じてホームが立ち会い、管理者や看護師が窓口となって迅速・適切な医療提供に努めている。今後、ホーム内で薬剤の勉強会を計画している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員は、ご利用者様の心身状態に常に気を配り、看護職への24時間いつでも連絡できる体制も整えています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院に際し、ホームでの日常生活の様子や状態などの情報を、医療機関へ速やかに提出し、入院中は定期的に訪問、状態の把握に努め、退院後の受け入れ態勢を整えています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時に、終末期の医療について事前にご意向を伺い、事業所での対応等について説明を行っています。 経年により意向が変化した場合は、話し合いにより合意を得ます。	重度化や終末期の対応は、その都度利用者や家族の意向を確認し、相談して方針を決めている。夜間対応や緊急時対応のマニュアルを作成し勉強会を行なっている。今後、看取りについてさらに勉強を重ねる予定である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に勉強会を開催し、知識の習得に努めています。 また、緊急連絡網体制を整え、それらはホーム内の数か所に掲示しています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防、避難訓練を実施し、全職員が知識を深めるよう努めています。 避難経路は、ホーム内の数か所に掲示しています。 飲料水などの備蓄あり。	避難訓練は年2回実施している。広域災害時には法人本部から連絡がある。災害連絡時の連絡網を完備しており安否確認から被害確認まで全職員が対応できる体制を整えている。また備蓄を揃えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	フロンティアグループが掲げる、「我々の接遇5原則ルール」を朝礼時に唱和し、プライバシーに配慮した介助、言葉かけを行うよう、職員同士で注意喚起しています。	接遇5原則を職員間で共有し、職員同士で声を掛け合って注意を促している。入浴時の同性介助など利用者一人ひとりに合わせた対応や声掛けで信頼関係を築くように努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人様の意向を尊重し、画一的な支援にならないよう細心の注意を払っています。全ての場面において、自己決定を最優先しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員が強要、強制することはありません。心身面とのバランスを考慮しながら、一人ひとりのペースを大切にされた住環境を提供しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服装は、自己決定して頂いています。理美容に関しても、外部理髪店を利用するなど、ご本人様の意向を尊重しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者様と職員と一緒に食事をし、家庭の雰囲気再現できるよう努めています。また、協力的なご利用者様が多く、食後に食器を台所まで運んでくれることもあります。	食が早い利用者には落ち着いて食事ができるように声掛けやスプーンを小さくし誤嚥を防ぐなど一人ひとりに合わせた支援をしている。食の楽しみとしてクリスマスなど季節を感じる行事食を提供している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分摂取量を管理表に記入し、全職員が一目で把握できるようになっています。また、管理栄養士により献立が作成しているため、栄養バランス、カロリーも調整してあります。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアは必ず実施しています。また、歯科衛生士による口腔ケア、義歯の調整なども定期的に行っております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居後、一週間にわたり、排泄のパターンや動向を検証します。 プライバシーや自尊心に配慮した誘導、支援を心掛けています。	排泄チェックリスト等でパターンを把握し、時にはポータブルトイレを使うなど一人ひとりに合わせた支援を行なっている。こまめな声掛けで排泄の失敗が減った利用もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	牛乳やヨーグルトなどの乳製品を食事に採り入れ、また、便秘傾向の強いご利用者様に対しては、医師へ相談するなどの対応をしています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ご本人様の希望をお伺いし、入浴のタイミングを合わせています。 入浴前に体調の把握をし、無理に入浴を勧めるなどは致しません。	週2回入浴をしている。車いす利用者はシャワー浴の他足湯を行なっている。また季節の菖蒲湯やゆず湯、入浴剤で楽しんでいる。一番風呂や熱い湯が好みの利用者に対して柔軟に対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日常の過ごし方を、職員が指示したり、強制することはありません。 就寝時の排泄のパターンなども考慮し、気持ちよく眠れるよう、介護用品の見直しなども行っています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	フロンティアグループが掲げる、「誤薬に対する取り組み方法」に則り、職員二人による「服薬確認表」を使用しているダブルチェック、細心の注意を払って服薬支援を行っています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	張り合いや喜びを感じれる日々を過ごして頂けるよう、清掃や食事の準備、洗濯物の整頓などの役割分担をし、趣味や嗜好品なども継続して楽しんでいます。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候や季節を肌で感じれるよう、外出イベントを定期的に計画、実施しています。	散歩のような日常の外出は家族の協力がある場合可能であるが現状は難しい。ただし月1回の外出レクリエーションでは花見や運動会の見学などを行なっている。	ホーム利用者の重度化や職員配置の問題など課題はあるが、できる限り利用者の希望を叶える外出支援に期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	実際に現金を使用する場面は少ないですが、ホーム内においては、ご本人様に現金や財布の管理をして頂いています。(金銭トラブル等が発生する懸念がある場合は、職員が支援します)		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙、電話ともに規制などはしていません。ダイヤル操作が困難なご利用者様に代わり、職員がダイヤル操作をすることもあります。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	歩行や車イスでの通行の妨げにならないよう、通路には物を置かず、容易に移動できるよう配慮しています。 また、季節感を演出できるよう、壁面などの工夫をしています。	リビングの席な特に決めず、利用者が談笑し、DVDやテレビを見たり、歌を歌ったりと思いいきに過ごしている。職員と一緒に作った作品が廊下やリビングに飾られ季節を演出している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホーム内にソファが数か所設置しており、テレビ視聴時や、他利用者様、職員との会話など、自由に活用して頂いています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内のレイアウトに関して、特に指定はしていません。好きな寝具、家具、テレビなど自由に設置して頂いています。 ご家族様の写真を飾るご利用者様も多いです。	快適に過ごせるようにと整理整頓と安全対策を行なっている。筆筒などの家具の他にアルバムや化粧品、髭剃りなど思い出の品や使っていた日用品が置いてある。小銭入れを大切にしている利用者がいた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内は、わかりやすいレイアウトや配置を心掛け、可能な限り職員が寄り添い、自立した生活を送れるよう工夫しています。		